

金 沢 大 学

新技術 説明会 2018

アグリ・バイオ、計測、製造技術、エネルギー、
材料の各分野のライセンス・共同研究可能な技術を教員自ら発表！

2018年 **8月23日** **木** 12:55~16:00

JST東京本部別館ホール (東京・市ヶ谷)

●プログラム

12:55~13:00

開会挨拶

理事(総括・改革・研究担当)・副学長 向 智里

13:00~13:25

①能登海洋深層水を用いたストレス低減飲料・
化粧品の開発

環日本海域環境研究センター 臨海実験施設 教授 鈴木 信雄

13:30~13:55

②位置予測によるライブセルイメージングの
高速化技術

新学術創成研究機構 ナノ生命科学研究所 准教授 高橋 康史

14:00~14:25

③金属3Dプリンターで製作したポラスを有する
電解加工用電極

理工研究域機械工学系 助教 小谷野 智広

14:30~14:55

④イオン液体によるペロブスカイト膜の
ナノ粒子化技術と新規成膜手法新学術創成研究機構 未来社会研究コア
再生可能エネルギーユニット 教授 當摩 哲也

15:00~15:25

⑤表裏にサブナノメートルのしわを有する
低反射フィルムの作製法

理工研究域機械工学系 准教授 瀧 健太郎

15:30~15:55

⑥検出・制御が容易なアニオンセンサー/
セルロース由来CFRPの強化法

理工研究域生命理工学系 特任助教 廣瀬 大祐

15:55~16:00

閉会挨拶

(有)金沢大学ティ・エル・オー 代表取締役社長 中村 尚人

発明者である本学教員との個別面談も受付中！

主催 国立大学法人金沢大学、
国立研究開発法人科学技術振興機構
共催 有限会社金沢大学ティ・エル・オー
後援 特許庁、関東経済産業局、
株式会社北陸銀行、株式会社日本政策金融公庫

お申込み

下記Webサイトにてお申し込みください。
https://shingi.jst.go.jp/kobetsu/kanazawa-u/2018_kanazawa-u.html
または



金沢大学新技術説明会は、本学から生まれた研究成果を実用化させることを目的として、新技術や産学連携に興味のある企業関係者に向けて、発明者である本学教員が直接プレゼンする説明会です。

発表概要

① 能登海洋深層水を用いたストレス低減飲料・化粧品の開発

鈴木 信雄

能登海洋深層水には、表層海水には含まれない有機成分が存在して、その有機成分に魚(メジナ及びヒラメ)のストレスを低減する作用が認められました。深層水で飼育したヒラメの脳の解析により、細胞死を抑え、細胞修復を促進し、精神を落ち着かせる作用があることが判りました。

★想定される用途:水産業への応用(活魚輸送・養殖・畜養)、機能性食品(飲料など)や機能性化粧水への応用

② 位置予測によるライブセルイメージングの高速化技術

高橋 康史

走査型イオンコンダクタンス顕微鏡(SICM)は、生きている細胞のナノスケールの形状測定が可能です。その一方で従来のSICMは、1イメージングに30分もの時間が掛かっていました。走査方式の改良により、イメージングの時間を3分まで短縮することに成功しました。

★想定される用途:細胞のナノスケールの形状イメージング、細胞のケミカルイメージング

③ 金属3Dプリンターで製作したポラスを有する電解加工用電極

小谷野 智広

金属3Dプリンターを活用することで、任意箇所にポラス部を有し、ポラスの微小な空孔から加工点へ電解液を供給する電解加工用電極を開発しました。

★想定される用途:任意形状を加工するための電解加工用電極、放電加工用電極への応用、摺動面などへの液体の供給

④ イオン液体によるペロブスカイト膜のナノ粒子化技術と新規成膜手法

富摩 哲也

ペロブスカイト太陽電池では、緻密膜を成膜することが高性能化には重要です。本技術では、イオン液体を添加するのみでナノ粒子化した膜を得る手法の開発に成功しました。さらに、新規な成膜手法について紹介します。

★想定される用途:太陽電池、各種有機膜

⑤ 表裏にサブナノメートルのしわを有する低反射フィルムの作製法

瀧 健太郎

ナノリンクルと呼ばれている表面にしわのあるシートが、拡散反射による正反射の低減など独特な光学特性を有することから注目されています。本技術では、これまで作ることができなかった表裏にナノリンクル構造を有するシートを新たに開発しました。

★想定される用途:光反射防止

⑥ 検出・制御が容易なアニオンセンサー／セルローズ由来CFRPの強化法

廣瀬 大祐

(1)ナノカーボンの一つであるポリ(ジフェニルアセチレン)誘導体を用いた比色蛍光アニオンセンサーを開発しました。(2)セルローズベース炭素繊維強化樹脂(CFRP)の強度向上のための共有結合を用いた強化手法、特にバイオベースの相溶化剤を開発しました。

★想定される用途:(1)アニオン量および種類の迅速な決定、(2)セルローズベースCFRPの界面親和性強化



金沢大学研究分野別シーズデータベースのご案内

上記以外にも本学の様々な研究シーズをフリーワード検索できます。ぜひご利用ください。

<http://ridb.kanazawa-u.ac.jp/seeds/>

金沢大学 シーズ データベース

検索



お問い合わせ

有限会社金沢大学ティ・エル・オー

TEL: 076-264-6115 FAX: 076-234-4018

E-mail: info@kutlo.co.jp WebSite: <http://kutlo.co.jp/>

